

日本地震学会の活動（補足資料）

■日本地震工学会との会長懇談会

2013年以降、毎年開催して状況共有や意見交換を実施
地震学会からは、会長、副会長2名、常務理事、事務局が出席

■日本地震工学会と連携開催の秋季大会

2019 京都大会

大会3日目に公益社団法人日本地震工学会との合同特別セッション
「長周期地震動 —その生成から構造物の応答、社会の対応まで—」「南海トラフ巨大地震
(基調講演・パネルディスカッション)」を開催

2027 つくば大会（予定）

■日本地震工学会に関連する「行動計画2012」記載事項の実績まとめ

(1)「地震と防災」などをテーマとした小中高校向けの副読本やビデオなどのわかりやすい教材の作成において両学会が共同して作業を行い、学術情報をわかりやすく発信していく、
実施なし。

(2) ニュースレターやメールニュースで相手学会関連の情報を掲載する、
双方でイベントや資料頒布の案内等、依頼があれば定期メールニュースへ掲載している。直近では7月5日の特別シンポジウムやミャンマーの地震のオンライン談話会の参加案内を、地震工学会のメールニュースで配信してもらった。ただ、いずれもメールニュースによるイベント案内や資料頒布に限られ、お互いの活動情報などの冊子媒体への掲載はなかった。

(3) 学術講演会において、相手学会の会員でなくても会員としての参加登録料で参加できるような優遇措置を講じる、
オンライン談話会を6学会連絡会に参加する学会（日本地震工学会を含む）にYouTube閲覧優遇措置、強震動講習会を日本地震工学会他と共催（参加料優遇）。

(4) 地震工学会を含む学術団体に検討している、海外での巨大地震発生時に臨時に設置している地震被害調査団の常設化に地震学会も参加する、
実施なし。調査団ではなく、臨時設置される連絡会への参加あり。

(5) Milne 没後100 周年記念や関東地震90 周年記念事業など両学会が共催できる企画を推進する、
両者を2013年に実施した。

(6) 両学会の会長は最低年 1 回程度懇談の場を持ち、両学会の連携について意見を交換する。
継続して実施中。

■他学会との連携：一般社団法人 防災学術連携体への参加
<https://janet-dr.com/>

2011 年東北地方太平洋沖地震発生後にその対応として日本学術会議内から始まった学協会連絡会の活動の延長で、地震学会は当初から現在まで継続して参加。災害調査委員会が窓口になっている。最近の 2025 年 1 月 7 日防災学術連携体シンポジウム「阪神・淡路大震災 30 年、社会と科学の新たな関係」では、地震学会からも取組と活動の報告を行った。

■シンポジウム&特別シンポジウム

2013

関東地震 90 周年記念シンポジウム—過去に学び，未来に備える—（東京：290 名）

対象：社会人、学生（大学生・高校生）

主催：日本地震学会、[日本地震工学会](#)、歴史地震研究会

2014

地震被害の軽減に向けた研究者たちのメッセージ —阪神・淡路大震災 20 年：地震

関連科学の到達点と新たな決意—（神戸市：132 名）

対象：市民

主催：日本地震学会（幹事学会）、日本活断層学会、[日本地震工学会](#)

2015

三陸ジオパーク推進協議会と共同し、震災語り部やガイドに対する研修会を開催（宮古市
および大船渡市） [社会活動基金](#)

2016

昭和南海地震 70 周年シンポジウム（高知市：170 名）

主催：[日本地震工学会](#)、日本地震学会

平成 28 年熊本地震 住民地震セミナー（阿蘇市：150 名） [社会活動基金](#)

対象：一般

理事会主催「南海トラフ巨大地震：予測可能性シンポジウムと防災対応 WG に関する説明
会」を秋季大会会期中に開催 [国家プロジェクト](#)

2017

日本地震学会・日本災害情報学会共同勉強会「南海トラフ地震の発生予測と社会的課題」（
東大地震研） [国家プロジェクト](#)

対象：両学会会員

シンポジウム「地震発生予測と大震法および地震防災研究」（東京：107 名） [国家プロジ
ェクト](#)

対象：会員、一般

平成 28 年熊本地震 住民地震セミナー（益城町） [社会活動基金](#)

対象：一般

2019

第 1 回特別シンポジウム 「内閣府『南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応のあり方について』報告を知る」（千葉：77 名） [国家プロジェクト](#)

対象：会員

第 2 回特別シンポジウム 「南海トラフ地震臨時情報：科学的データや知見の活用」（京都：114 名） [国家プロジェクト](#)

対象：会員

2022

特別シンポジウム 大地震発生！「1 週間程度は注意」の次は？－後発地震と臨時情報（オンライン） [国家プロジェクト](#)

対象：会員

特別シンポジウム 「等身大の地震学」をどう防災に役立ててるのか？－確率論的地震ハザード評価とシナリオ型地震被害想定とその利活用（オンライン） [国家プロジェクト](#)

対象：会員

2023

第 16 回 [日本地震工学](#)シンポジウム（16JEES）（共催：横浜）オーガナイズドセッション「海溝型巨大地震の予測情報をめぐる防災対策とリスクコミュニケーション-「わかりにくさ」に向き合う」を企画

地震住民セミナー「最新科学で知る多様な南海トラフ巨大地震～助かる可能性をあきらめない～」（海陽町） [社会活動基金](#)

対象：一般

特別シンポジウム 「地震学」は自治体や消防の現場にどう使えるか－南海トラフや首都直下の対策現場から問う研究最前線（東京およびオンライン）

対象：[消防・防災に関心のある方](#)

2024

徳島大学・日本地震学会 特別シンポジウム「最新科学で備える南海トラフ地震」（徳島およびオンライン）

対象：一般

2025

地震本部設立から 30 年—地震学の知見がどう「地震の評価」に生かされてきたのか

対象：会員、一般

■秋季大会の特別セッション

2012 1 件

(S21) 大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化—何を調べればどこまで予測可能となるのか?— [コンビナー：三浦 哲・飯尾能久・小泉尚嗣] **地震予測**

2013 2 件

(S21) JFAST：海溝軸での巨大地震性滑りの解明 [コンビナー：James Mori・小平秀一]

(S22) 実践的な地震予測可能性研究にむけて [コンビナー：鶴岡 弘・平田 直] **地震予測**

特別シンポジウム（秋季大会 1 日目午後）「教育を通じた地震災害軽減の現状と課題」

アウトリーチ

特別シンポジウム実行委員会：伊東明彦（宇都宮大学）、中川和之（時事通信社）、津田健一（清水建設）、香川敬生（鳥取大学）

2014 1 件

(S21) 新潟地震 50 周年・新潟県中越地震 10 周年：これからの地震研究と災害軽減 [コンビナー：中島 淳一・林 豊・中村洋光]

2015 公募 1 件+大会企画 2 件

(S21) 地殻活動ビッグデータが拓く新世界 [コンビナー：中川茂樹・加藤愛太郎・汐見勝彦]

(S22) 阪神・淡路大震災から 20 年を迎えた地震研究の到達点と課題 [コンビナー：中島淳一・中村洋光・津野靖士]

(S23) 2015 年 5 月 30 日小笠原諸島西方沖の深発地震 [原辰彦・久家慶子・加藤護]

2016 1 件

(S21) 2016 年熊本地震および関連する地震活動 [コンビナー：馬場俊孝]

2017 2件

(S21) 大地震の発生予測と災害軽減に向けて [コンビナー: 加藤愛太郎・堀高峰・宍倉正展] **地震予測**

(S22) 九州中部のサイスマテクトニクス研究と地震ハザード評価への展開: 別府-万年山断層帯と布田川-日奈久断層帯の調査から見えたこと [コンビナー: 竹村恵二・清水洋・吉見雅行]

2018 4件

(S20) 伝える・伝わる地震学 [コンビナー: 根本泰雄・平松良浩・中川和之] **アウトリーチ**

(S21) 地震波・地震動の理論と解析 50 年 [コンビナー: 瀧川一起・竹中博士・古村孝志]

(S22) 2011 年東北地方太平洋沖地震の地震学—7 年間の成果 [コンビナー: 日野亮太・松澤暢・小平秀一]

(S23) 地震活動とその物理 [コンビナー: 波多野恭弘・麻生尚文・堀高峰]

2019 3件

(S21) 長周期地震動—その生成から構造物の応答, 社会の対応まで— [コンビナー: 青井真・久田嘉章・岡本 國徳]

(S22) 地震学における機械学習の可能性 [コンビナー: 内出崇彦・小寺祐貴・久保久彦]

(S23) オープンデータと地震学 [コンビナー: 加納靖之・汐見勝彦]

2020 (オンライン) 4件

S21. Geomechanics: observations, modeling, and seismic hazard assessment Conveners: Chung-Han Chan (E-DREaM Center, National Central University), Hung-yu Wu (Department of Resource Engineering National Cheng Kung University)

S22. 琉球弧のジオダイナミクス コンビナー: 小平秀一 (JAMSTEC), Ban-Yuan Kuo (IES, Academia Sinica, Taiwan), 中村 衛 (琉球大学)

S23. 観測地震学のフロンティア~稠密地震観測の未来像~ コンビナー: 汐見勝彦 (防災科学技術研究所), 加藤愛太郎 (東京大学地震研究所), 高木涼太 (東北大学地震・噴火予知研究観測センター)

S24. 機械学習による地震学の未来の開拓 コンビナー: 内出崇彦 (産業技術総合研究所), 久保久彦 (防災科学技術研究所), 小寺祐貴 (気象庁気象研究所)

2021 (オンライン) 3件

S21. 震源物理・地下構造推定・強震動評価のための地震波スペクトル解析 コンビナー：内出崇彦（産業技術総合研究所）、染井一寛（一般財団法人地域地盤環境研究所）、中島淳一（東京工業大学）

S22. AIによる地震学の発展 コンビナー：久保久彦（防災科学技術研究所）、内出崇彦（産業技術総合研究所）

S23. ベイズ統計学による地震データの解析と数理モデリングの深化 コンビナー：長尾大道（東京大学地震研究所）、加藤愛太郎（東京大学地震研究所）、矢野 恵佑（統計数理研究所）

2022 3件

S21. AIによる地震学の発展 コンビナー：久保久彦（防災科学技術研究所）、直井 誠（京都大学防災研究所）、岡崎智久（理化学研究所）

S22. 北海道周辺の沈み込み帯における地震・津波に関する諸現象 コンビナー：大園真子（北海道大学）、椎名高裕（産業技術総合研究所）、千葉 崇（酪農学園大学）、山中悠資（北海道大学）

S23. ベイズ統計学による地震データ解析とモデリングの深化 コンビナー：長尾大道（東京大学地震研究所）、加藤愛太郎（東京大学地震研究所）、矢野恵佑（統計数理研究所）

2023 2件

S21. 情報科学との融合による地震研究の加速：加納（東北大）、縣（JAMSTEC）、寒河江（AIST）、加藤慎也（ERI）

S22. 能登半島北東部の群発地震と M6.5 の地震：平松（金沢大）、西村（DPRI）、岩田（DPRI）、石山（ERI）

2024 3件

S21. 情報科学との融合による地震研究の加速：加納（東北大）、縣（JAMSTEC）、寒河江（AIST）、加藤慎也（ERI）

S22. 令和6年能登半島地震

緊急特別セッション 南海トラフ地震臨時情報 **国家プロジェクト**

2025 5件

S21. 惑星地震学：小野寺圭祐（岡山大学）、新谷昌人（東京大学地震研究所）、西田究（東京大学地震研究所）

S22. 情報科学との融合による地震研究の加速：加納 将行（東北大学）、縣 亮一郎（海洋研究開発機構）、寒河江 皓大（産業技術総合研究所）、加藤 慎也（東京大学地震研究所）

S23. 群発地震の発生メカニズムの解明に向けて：今西和俊（産業技術総合研究所）、加藤愛太郎（東京大学地震研究所）、吉田圭佑（東北大学）、寺川寿子（名古屋大学）

S24. 兵庫県南部地震から 30 年：内陸地震研究・ハザード予測の進展と展望：西田究（東京大学地震研究所）、土井恵治（土佐清水ジオパーク推進協議会）、久保久彦（防災科学技術研究所）、田中信也（東電設計）

S25. 2025 年 7 月 30 日カムチャツカ半島地震：西田究（東京大学地震研究所）、対馬弘晃（気象庁気象研究所）、久保久彦（防災科学技術研究所）、田中信也（東電設計）

■モノグラフ

第 1 号 意見集「地震学の今を問う」 →行動計画 2012

第 2 号 「ブループリント」50 周年地震研究の歩みと今後

第 3 号 日本の原子力発電と地球科学 **国家プロジェクト（国プロ）**

第 4 号 学校・社会教育による地震知識の普及

第 5 号 地震発生予測と大震法および地震防災研究 **国プロ**

第 6 号 南海トラフ地震臨時情報：科学的データや知見の活用 **国プロ**

第 7 号 等身大の地震学をどう社会に役立てるか **国プロ**

第 8 号 地震学的視点で捉える南海トラフ地震の臨時情報と防災対策のこれから **国プロ**

■オンライン談話会（会員、関連学会員、メディア関係者対象）

2024

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震に関して 4 回

2025

2025 年ミャンマー地震に関して 2 回

2025 年カムチャツカ地震に関して 1 回

■其他国家プロジェクト（国プロ）に関連する刊行物

大震法に関する NL 記事

NL 2017 年 3 月号 NL-6-14

南海トラフ地震臨時情報に係る特別シンポジウム等の開催報告

NL に記事あり

■寄附に関連する活動

税額控除に係る証明を2022年11月に公益認定等審査委員会に継続申請（証明期間は5年間：2022年12月～2027年11月）

寄付制度全体に関して、取扱規則がなかったことから、学会全体の活動に対する一般寄付のほか、特定の目的のための寄付金制度について2024年3月に規則を設けた。

寄付者名簿は寄付者に意向を確認のうえ、毎年度3月に発行されるニュースレターに掲載。

寄附に対する褒章制度は検討されていない。

■「地震（学術論文部）」の発行状況

年度	論説	資料史料	寄書	総合報告	技術報告	解説	特集	訂正	合計
2012	18	0	3	0	0	0	8	1	30
2013	10	0	3	0	0	0	0	0	13
2014	6	1	3	0	0	0	0	0	10
2015	8	0	2	0	0	5	0	2	17
2016	7	0	4	1	0	0	0	0	12
2017	11	3	3	0	0	2	0	0	19
2018	8	2	1	0	0	5	0	2	18
2019	2	2	1	0	1	2	0	0	8
2020	7	2	2	1	0	3	0	0	15
2021	3	2	2	1	0	4	0	0	12
2022	8	2	3	0	2	1	0	0	16
2023	11	2	7	2	1	2	(9)	0	25
2024	4	0	4	0	1	3	0	0	12

（注）2023年は、合計25件のうち9件が特集号